

# 目次——なぜ朝鮮半島「核」危機は繰り返されてきたのか

まえがき

003

## 序章 本書の目的と意義

013

## 第一章 朝鮮半島核危機の形成要因についての二つの視点

021

——抑止モデルとスパイラル・モデル

### 第一節 抑止モデル批判

021

第一項 抑止モデルにおけるパワー・マキシマイザーについての批判的考察

021

第二項 抑止モデルにおける一方的な緊張形成についての批判的考察

046

### 第二節 スパイラル・モデルとは何か

053

第一項 抑止理論の歴史的経緯と基本構造

053

第二項 合理性の変質に至るメカニズム

071

### 第三節 時代区分と事例

100

## 第二章 第一次朝鮮半島核危機（一九九〇—一九九四）

105

### 第一節 第一次朝鮮半島核危機における緊張プロセス

105

第一項 冷戦体制崩壊直後における米朝の参照点、初期信念、事前確率

105

第二項 緊張の形成…北朝鮮による核開発をめぐる誤認の始まり

110

第三項 北朝鮮の核開発に対する脅威認識の検討

119

### 第二節 相互認識作用の検討

128

### 第三節 小括

133

## 第三章 KEDOプロセスと一九九八—一九九九年における緊張形成（一九九四—一九九九）

137

緊張形成（一九九四—一九九九）

### 第一節 リアシユアランス・プロセス下における緊張の再形成

138

第一項 一九九八—一九九九年における緊張形成の参照点と信念

138

第二項 KEDOプロセスにおけるコミットメント問題

139

第三項 緊張の再形成

144

第四項 米国による拒否的抑止力の導入…ミサイル防衛

154

第二節	相互作用の検討	162
第三節	小括	169
第四章	第二次朝鮮半島核危機（二〇〇一―二〇〇三）	173
第一節	第二次朝鮮半島核危機の形成プロセス	173
第一項	第二次朝鮮半島核危機の参照点と信念	173
第二項	緊張の再形成	176
第二節	相互作用の検討	198
第三節	小括	201
第五章	六カ国協議をめぐる緊張の変化（二〇〇三―二〇〇九）	205
第一節	リアシユアランス・プロセス下における緊張の再形成	206
第一項	二〇〇三―二〇〇九年における緊張形成の参照点と信念	206
第二項	六カ国協議におけるコミットメント問題	207
第三項	緊張レベルの再上昇	215
第四項	二〇〇三―二〇〇九年における米朝の軍備拡張——核実験とMD	221
第二節	相互作用の検討	227
第三節	小括	231
第六章	第二次朝鮮半島核危機（二〇〇九―二〇一三）	235
第一節	第三次朝鮮半島核危機の形成プロセス	236
第一項	第三次朝鮮半島核危機の参照点と信念	236
第二項	緊張の再形成	241
第二節	相互作用の検討	258
第三節	小括	261
終章	結論	265
第一節	事例上の含意	267

第一項	三つの傾向による含意	267
第二項	第三次朝鮮半島核危機以降の含意	275
第二節	理論上の含意	277
第一項	合理的選択の観点からの含意	277
第二項	認知心理学の観点からの含意	281
第三項	権利の衝突としての含意	283
第三節	政策上の含意	289

補論	金正恩政権における核兵器高度化と米朝間の緊張形成への影響	299
----	------------------------------	-----

註	370
あとがき	371
参考文献	385